

陸連時報 三

2017
平成29年

10 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)報告(強化委員会).....	214
ホクレン・ディスタンスチャレンジ2017大会報告.....	218
世界パラ選手権・世界選手権 競技運営視察報告(競技運営委員会・JTO 杉本太郎/片岡裕介).....	219
科学委員会活動報告(科学委員会 高橋恭平/広川龍太郎/杉田正明).....	221
山澤文裕 本連盟理事・医事委員長 国際陸上競技連盟(IAAF) 功労章 受章.....	223
施設用器具委員会報告(2017-1)(施設用器具委員会).....	224
大会観戦ガイド.....	226
陸協NEWS.....	228
事務局からのお知らせ.....	230

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)報告

強化委員会

【全体総括/ゴールド・メダルターゲット】

強化委員長 伊東浩司
コーディネーター 金子公宏

【全体総括】

昨年11月に2020年東京オリンピックへ向けて強化体制を一新し、「ゴールドターゲット」「メダルターゲット」「TOP8ターゲット」「ワールドチャレンジ」と4カテゴリーで強化事業を展開してきた。今大会は、メダルや入賞数を目標として掲げず、自己記録にいかにつづけるかをテーマとして出場した。自己記録を更新すると各カテゴリーのテーマとしていることを達成出来るとも考えていた。「ゴールドターゲット」である競歩と男子100・200mでメダルを獲得することが出来た。男子50キロ競歩では、荒井広宙が銀メダル、小林快は銅メダルを獲得し、丸尾知司も5位入賞を果たした。また男子4×100mリレーでは、多田修平、飯塚翔太、桐生祥秀、藤光謙司の4人がイギリス、米国に続く3位。18歳のサニブラウンアブデルハキームが男子200メートルで決勝に進出し、7位入賞を果たした。一方、メダルターゲットカテゴリーに属する男子400mH、男子棒高跳、男女やり投では、安部孝駿が男子400mHで準決勝進出を果たしたものに止まった。2020年東京オリンピックでは、このカテゴリーの活躍が必須条件になるだけに、この大会までの強化事業をしっかりと振り返り、次へとむかってもらいたい。TOP8カテゴリーは、山崎デレクターから詳しい報告があるが、2020年東京オリンピックでは、このカテゴリーでの出場者が1人でも多くなり、準決勝ラウンド以上に進出を目標にしていることもあり、男子110mHでは3名エントリー、増野元太が準決勝進出を果たしたことは、今後のカテゴリー強化には非常に大きな意味を持つと考える。ワールドチャレンジのカテゴリーからは、インビテーションであるが、100mHで木村文子、柴村仁美の2名が出場した。木村は、世界陸上で日本勢初の準決勝進出を果たした。両名とも、インビテーションがあることも意識して、アジア選手権大会後も、世界ランキングを常に意識しながらトレーニングを継続してくれた結果だと考える。IAAFのグランプリ競技会などではウェーティング制度は常識化であるように、このインビテーション制度は、選手の大会出場の可能性を広げる制度だけに、2020年にむけて、この制度への対応をしっかりとしていく重要性を再認識した。最後に、男女の長距離マラソンに関しては、男子長距離種目の出場者0名は、危機的な状況であるが、それ以外の種目に関して、世界との差はあったが、女子5000mの鍋島莉奈が自己新記録を樹立するなど今後に繋がるレースを全選手が行ってくれたと考える。

【ゴールド・メダルターゲット】

本カテゴリーからエントリーされたのは、男子100m(3名)、男子200m(2名)、男子400mH(3名)、男子棒高跳(2名)、男子やり投げ(1名)、女子やり投げ(3名)、男子20km競歩(3名)、女子20km競歩(1名)、男子50km競歩(3名)、男子4×100mR(リレー要員として2名)の10種目22名で、銀メダル1、銅メダル2、入賞2の結果を収め、前回大会(2015/北京 銅メダル1、入賞2)を上回った。しかしながら、本カテゴリー全種目においてフルエントリーとは行かず、高いレベルの結果が求められるこのカテゴリーにおいては、種目による差はあるものの、より一層の強化が必要であり、さらなる活性化が求められる。

以下、各種目について報告する。

1. ゴールドターゲット

1) 男子100m

出場3選手(サニブラウン、多田、ケンブリッジ)共に今シーズンに自己新記録を出しての試合となり、揃って予選を通過した。試合以前より準決勝で如何に戦うかをテーマとしていたこともあり、準決勝の走りが期待されたが、決勝進出とはならなかった。しかしながらサニブラウンにおいては、予選で10秒05の自己タイ

記録をマークし決勝進出が期待されたが、準決勝においてはスタートでつまずき決勝進出とはならなかったものの、決勝進出が10秒10であったことを考慮すれば、十分可能であったと思われる、2019年世界選手権・2020年東京オリンピックの決勝の舞台で活躍する姿が目に見えてくる。

2) 男子200m

本命不在の200mにおいて期待されたこの種目には、2選手(サニブラウン、飯塚)が出場し、共に揃って予選を通過した。準決勝においてはサニブラウンが組2着に入り、2003年パリ世界陸上末續選手以来となる決勝進出を果たした。決勝においても積極的なレースを見せたが途中で足を痛め7着に終わった。本大会5本目のレースで体力的な課題もあるかと思われるが、まだ18歳と若く、今秋よりアメリカのフロリダ大学へ進学することもあり、今後の更なる飛躍が期待される。

3) 男子20km競歩

ランキング的にも入賞可能な3選手(藤澤、高橋、松永)が出場し、メダル、複数入賞が期待されたが、残念ながら入賞0の結果となった。入賞者の殆どが自己記録、シーズン記録を出していることが、今後の日本の選手の課題の一つとなろう。ただしこの種目を含む競歩チームは、組織的かつ東京オリンピックを見据えた実践的な取り組みを行なっていることもあり、早期に今結果を精査し、今後に繋げていただきたい。

4) 女子20km競歩

岡田1名の出場で厳しい戦いになったが、着実に国際大会での順位を上げてきている。今後入賞までの約2分の差をどのように克服していくかと同時に、岡田が孤軍奮闘している状況から複数出場者が出てくることが待たれる。

5) 男子50km競歩

ランキング的に活躍が期待されるこの種目には3名が出場し、荒井がシーズン記録で銀メダル、小林が自己新記録で銅メダルを獲得、丸尾は自己新記録で5位と入賞を果たし、素晴らしい結果を残すことができた。この成績が残せたことは、選手本人の取り組みはもちろんのこと、オリンピックコーチを中心とした多くのスタッフの尽力、長期にわたる準備等、多くの要因が考えらよう。今回のプロセスを競歩のみならず、他種目間で情報を共有し、東京オリンピックでの陸上競技の成功へのヒントとして繋げてもらいたい。

6) 男子4×100mR

同日に予選、決勝が行われたこの種目の予選には、第一走者から、多田・飯塚・桐生・ケンブリッジと、昨年のリオオリンピックメダリストメンバーから最小限のメンバーの入れ替えで挑むことができ、期待されたが組3着、全体では6番目での予選通過となり決勝が不安視された。オリンピックコーチ、リレースタッフ、関係者との協議の末、予選メンバーからアンカーを藤光に入れ替え挑んだ決勝では、ジャマイカの失格があったものの3位でゴールし、世界陸上初のリレーでの銅メダルを獲得した。決勝に進んだチームの中で予選より記録を更新したのは上位3チームだけだったことを考慮すれば、スタッフの好判断が生んだ結果であったと言えよう。

2. メダルターゲット

1) 男子400mH

出場選手3名(安部、石田、鍛冶木)の内、安部が準決勝に進出した。準決勝では積極的なレースを見せたが、8台目のハードルを引っ掛け大きく失速し決勝進出とはならなかった。まず、準決勝進出タイムが50秒0、決勝進出タイムが49秒13であったことからチャンスは十分あった。お家芸と言われたこの種目において、知見とノウハウは蓄積されているので、今後英知を集約し、野澤、安部を中心とした重点強化を継続して欲しい。

2) 男子棒高跳

期待されたこの種目には2名(山本、萩田)が出場したが、本番途中で足がつるなど力を発揮することができなかった。今回の問題を早期に精査し、今後に繋げてもらいたい。

3) 男子やり投げ

今回参加標準記録を誰も突破できなかったこの種目において、新井がインビテーションにより出場した。今季なかなか調子が上がらない中での試合であり、本人が一番苦しい状況を感じていると思う。力がある選手なので、復調してきて欲しい。

4) 女子やり投げ

海老原、インビテーションにより斉藤、宮下が出場したが、決勝に進むことはできなかった。しかしながら決勝進出記録が62m29であったことから、チャンスがある種目と再認識した。(8月25日ユニバーシアード大会で、斉藤が62m37の日本歴代2位の記録を樹立)。

3. 男子4×400mR

日本選手権優勝者北川貴理の調子が上がらず、佐藤拳太郎・金丸祐三・木村和史・堀井浩介のオーダーで臨んだ。近年の国際大会での課題である前半から積極的なレースが今回も出来ず3分07秒29という記録に終わってしまった。日本チームが、この種目で決勝を目指していた頃は、200m・800m・400mHの選手がメンバーとして加わっていたことを考えると、2020年東京オリンピックにむけて、400m選手の奮起はもちろんであるが、あらゆる選択肢を考えながらこの現状を打破してもらいたい。

[TOP8ターゲット・ワールドチャレンジ]

T&Fディレクター 山崎一彦
コーディネーター 遠藤俊典

TOP8ターゲット・ワールドチャレンジカテゴリーから出場したのは110mH、男子3000mSC、男子三段跳、男子走高跳、100mHの5種目9名で、メダルおよび入賞はなかった。東京オ

第16回世界陸上競技選手権大会 (2017/ロンドン)

(男子)

該当ラウンドはありません

No.	競技種目	選手名	所属	2017 SB	PB	日付	予選	日付	準決勝	日付	決勝			
1	100m	トブ ラン アブ デルキム	東京陸協	10.05	10.05	8/4	10.05(1/h2)-0.6m/s PB 準決勝進出	8/5	10.28(7/h2)-0.2m/s 落選	8/5				
	200m	トブ ラン アブ デルキム	東京陸協	20.32	20.32	8/7	20.52(2/h1)-0.5m/s 準決勝進出	8/9	20.43(2/h2)-0.3m/s 決勝進出	8/10	20.63-0.1m/s 7位入賞			
2	100m	多田 修平	関西学院大学	10.08	10.08	8/4	10.19(4/h6)+0.3m/s 準決勝進出	8/5	10.26(5/h3)+0.4m/s 落選	8/5				
3	100m	ケンブリッジ 飛鳥	Nike	10.08	10.08	8/4	10.21(4/h4)-0.2m/s 準決勝進出	8/5	10.25(6/h1)-0.5m/s 落選	8/5				
4	200m	飯塚 翔太	ミスノ	20.40	20.11	8/7	20.58(2/h7)+0.7m/s 準決勝進出	8/9	20.62(5/h1)+2.1m/s 落選	8/10				
5	400m	北川 貴理	順天堂大学	45.48	45.48	8/5	47.35(6/h6) 落選	8/6		8/8				
6	110mH	増野 元太	ヤマダ電機	13.40	13.40	8/6	13.58(4/h2)+1.3m/s 準決勝進出	8/6	13.79(7/h1)+0.2m/s 落選	8/7				
7	110mH	高山 峻野	ゼンリン	13.44	13.44	8/6	13.65(7/h1)-1.2m/s 落選	8/6		8/7				
8	110mH	大室 秀樹	大塚製菓	13.48	13.48	8/6	13.78(7/h3)+0.1m/s 落選	8/6		8/7				
9	400mH	安部 孝駿	テサントTC	48.94	48.94	8/6	49.65(2/h1) 準決勝進出	8/7	49.93(5/h2) 落選	8/9				
10	400mH	石田 裕介	早稲田大学	49.35	49.35	8/6	50.35(5/h2) 落選	8/7		8/9				
11	400mH	鍛冶木 峻	城西大学	49.33	49.33	8/6	51.36(6/h4) 落選	8/7		8/9				
12	3000mSC	滝渡 大記	富士通	8:29.05	8:29.05	8/6	8:45.81(13/h2) 落選			8/8				
13	走高跳	衛藤 昂	味の素AGF	2.30	2.30	8/11	2.22(9/B) 落選			8/13				
14	棒高跳	山本 聖途	トヨタ自動車	5.71	5.77	8/6	5.30(15/A) 落選			8/8				
15	棒高跳	萩田 大樹	ミスノ	5.70	5.70	8/6	5.45(9/B) 落選			8/8				
16	三段跳	山本 凌雅	順天堂大学	16.87	16.87	8/7	16.01(15/A)-0.5m/s 落選			8/10				
17	やり投	新井 涼平	スズキ浜松AC	82.13	86.83	8/10	77.38(12/A) 落選			8/12				
18	マラソン	川内 優輝	埼玉県庁	2:09:18	2:08:14					8/6	2:12:19 9位			
19	マラソン	中本健太郎	安川電機	2:09:32	2:08:35					8/6	2:12:41 10位			
20	マラソン	井上 大仁	MHPS	2:08:22	2:08:22					8/6	2:16:54 26位			
21	20km競歩	藤澤 勇	ALSOK	1:18:23	1:18:23					8/13	1:20:04 11位			
22	20km競歩	高橋 英輝	富士通	1:18:18	1:18:03					8/13	1:20:36 14位			
23	20km競歩	松永 大介	富士通	1:19:40	1:18:53					8/13	1:23:39 38位			
24	50km競歩	荒井 広宙	自衛隊体育学校	3:47:18	3:40:20					8/13	3:41:17 SB 銀メダル			
25	50km競歩	小林 快	ビックカメラ	-	3:42:08					8/13	3:41:19 PB 銅メダル			
26	50km競歩	丸尾 知司	愛知製鋼	3:49:17	3:49:17					8/13	3:43:03 PB 5位入賞			
27	十種競技	中村 明彦	スズキ浜松AC	7873	8180	8/11	100m	11.06(3/h3)-1.3m/s 847pt	8/11	400m	48.98(4/h3)862pt	8/12	やり投	54.22(10/B)651pt
						8/11	走幅跳	7.28(13/B)-0.6m/s 881pt	8/12	110mH	14.43(4/h3)+0.4m/s 920pt	8/12	1500m	4:22.62(1)794pt
						8/11	砲丸投	11.37(14/A)568pt	8/12	円盤投	33.65(12/B)537pt			
						8/11	走高跳	1.96(8/B)767pt	8/12	棒高跳	4.70(4/B)819pt			
28	十種競技	右代 啓祐	スズキ浜松AC	7807	8308	8/11	100m	11.53(8/h1)-0.2m/s 746pt	8/11	400m	51.43(7/h1)750pt	8/12	やり投	63.28(3/A)787pt
						8/11	走幅跳	6.64(14/A)-0.2m/s 729pt	8/12	110mH	15.35(5/h1)-0.5m/s 808pt	8/12	1500m	4:51.90(20)607pt
						8/11	砲丸投	13.43(17/B)693pt	8/12	円盤投	47.64(4/B)821pt			
						8/11	走高跳	1.96(6/B)767pt	8/12	棒高跳	4.60(8/B)790pt			

競技種目	予選期日	出場オーダー	順位	記録
4×100mR	8/12	多田修平-飯塚翔太-桐生祥秀-ケンブリッジ飛鳥	3/h1 決勝進出	38.21
	決勝期日	出場オーダー	順位	記録
	8/12	多田修平-飯塚翔太-桐生祥秀-藤光謙司	3位 銅メダル	38.04
競技種目	予選期日	出場オーダー	順位	記録
4×400mR	8/12	佐藤拳太郎-金丸祐三-木村和史-堀井浩介	8/h2 落選	3:07.29
	決勝期日	出場オーダー	順位	記録
	8/13			

(女子)

No.	競技種目	選手名	所属	2017 SB	PB	日付	予選	日付	準決勝	日付	決勝
1	100mH	木村 文子	エディオン	13.06	13.03	8/11	13.15(4/h2)-0.9m/s 準決勝進出	8/11	13.29(8/h2)+0.5m/s 落選	8/12	
2	100mH	紫村 仁美	東邦銀行	13.03	13.02	8/11	13.29(6/h4)-0.6m/s 落選	8/11		8/12	
3	5000m	鍋島 莉奈	日本郵政グループ	15:19:87	15:19:87	8/10	15:11.83(9/h2)PB 落選			8/13	
4	5000m	鈴木亜由子	日本郵政グループ	15:20:50	15:08:29	8/10	15:24.86(14/h1) 落選			8/13	
5	10000m	鈴木亜由子	日本郵政グループ	31:41.65	31:18.16					8/5	31:27.30 SB 10位
6	10000m	松田 瑞生	ダイハツ	31:39.41	31:39.41					8/5	31:59.54 19位
7	10000m	上原 美幸	第一生命グループ	31:48.81	31:38.80					8/5	32:31.58 24位
8	やり投	海老原有希	スズキ浜松AC	61.95	63.80	8/6	57.51(13/A) 落選			8/8	
9	やり投	斉藤真理菜	国士館大学	61.07	61.07	8/6	60.86(9/A) 落選			8/8	
9	やり投	宮下 梨沙	大体大T.C	60.03	60.86	8/6	53.83(14/B) 落選			8/8	
10	マラソン	清田 真央	スズキ浜松AC	2:24:22	2:23:23					8/6	2:30:36 16位
11	マラソン	安藤 友香	スズキ浜松AC	2:21:36	2:21:36					8/6	2:31:31 17位
12	マラソン	重友 梨佐	天満屋	2:23:47	2:23:47					8/6	2:36:03 27位
13	20km競歩	岡田久美子	ビックカメラ	1:29:40	1:29:40					8/13	1:31:19 18位

オリンピックを目指す上で明るい材料としては、110mHでフルエントリーし、増野元太が準決勝進出したことであった。昨年リオ五輪に本大会に出場できなかった矢澤航を加えると層の厚さが出て来た。また、100mHにおいて、参加標準記録こそ突破していないが大会直前にインビテーションがかかり、2名が出場することができた。木村が準決勝へ駒を進めたことは大きな躍進であった。出場という面では、TOP8カテゴリーで出場できなかった男子800m、男子走幅跳であったが、800mに関しては参加標準記録達成率が99%以上と非常に惜しかったことや走幅跳は8mジャンパーが2名出るなど一定の成果を示すことができた。

以下、本大会に出場した選手の種目について「入賞」という観点で総括したい。通常、自己記録からの達成率および大会での各ラウンドの通過記録で見ることが多いが、本稿では自己記録(PB)、シーズン記録(SB)の観点から論じることとする。

1. TOP8 ターゲット

1) 男子110mH

出場3選手とも今シーズンPBを出し、選手層の厚みが増した。そのうち増野元太は予選で前半から中盤まで落ちていたハードリングを見せて4着13秒58で通過した。準決勝に進んだ24名中PBは22番目、SB20番目とはほぼ実力を出し切ったの予選通過であると言える。準決勝通過最低PBは13秒21、SBは13秒27だった。また決勝進出選手PBは5名が12秒台で、その他2名は今シーズンPBを出していた。このことから、常時決勝圏内に入るチャンスがあるのは限りなく12秒台に近い選手であり、ピンポイントで合わせることができるのなら13秒2台が必要となってくる。まずは13秒2台をコンスタントに走れる目標値を立てることが必要である。増野元太は準決勝で前を走る選手の転倒があり、明らかに進路妨害に見える場面があった。チームとして抗議するかを本人に聞いたが、行わない意向を示したため再レースなどはなかった。

2) 男子3000mSC

初出場の潰滝大記は、日本選手権後のホクレンディスタンスで参加標準記録を突破して出場権を獲得した。本大会予選では中盤以下でレースを進め、2組13位で予選通過はできなかった。日本選手に総じて言えることであるが、障害前のスピード低下、集団でのエネルギーロスは潰滝だけの問題ではなく、強化で考えていくことであると感じた。また、ラスト1000mは2分38秒で展開されていくため、現状ではついていくことはできなかった。決勝進出した選手は、1500mで3分33秒台が数名、3000mは7分40秒台が多数、5000mも13分一桁台が数名おり、現在の日本の長距離トップ選手以上のレベルの競技者が多数いた。ただし、障害技術を海外選手よりも格段に磨き、日本トップの走力で入賞ラインが見えてくると感じた。

3) 男子三段跳

初出場の学生である山本凌雅は、16m01で予選落ちした。世界選手権渡航前直前に大腿二頭筋を軽く痛めたことでのトレーニング変更や当日の助走の不安定さが目立ち、本来の力を発揮することができなかった。

本大会の決勝進出者の最低PBは17m18、SB16m96であった。17m20台を複数本跳んでおくと決勝に残れる可能性が出てくることから、まずは17m15の古く残る日本記録を更新したいところである。

4) 男子走高跳

衛藤昂は今シーズンPBである2m30を2度跳躍し、安定した成績を残していた。本大会では2m22で予選落ちした。予選通過ラインは衛藤のPBを上回る2m31でこの高さを跳躍したのは6名、通過ラインは2m26を1回で跳び2m29を2回目までに跳べた選手だった。決勝進出者のうち最低PB、SBは2m30で入賞最低PB、SBも同じ選手で2m30であった。このことから数値上では十分戦える位置にいますと言ってよい。しかしながら、予選通過ラインは感覚上かなり高いと感じてしまうことや、決勝は予選より記録を落としていく選手が多かったことから、記録以上に上位入賞を狙う意識付けや2m34以上PBを持っている心の余裕などが必要になってくるだろう。

2. ワールドチャレンジ

1) 女子100mH

大会直前のインビテーションでの参加が認められた木村文子と紫村仁美は準備期間が短かったにもかかわらず、日本人が課題とする国際競技会での中盤以降の大きな遅れはなかった。特に木村文子は、世界選手権では日本人初めての準決勝進出を果たした。

決勝進出者を見ると、最低PBは12秒78、SB12秒85であった。100mスプリントPBが11秒前半から中盤の選手が大多数で、世界一流レベルの7種競技経験者が2名であった。したがってスプリント能力の高い競技者のトランスファーもしくは運動技能に優れたタレントのトランスファーを促進することは必要である。また、日本の現状として12秒台の日本記録を中期目標とするならば、11秒後半の競技者でも12秒台後半の選手が存在することから、海外選手よりも劣る体力的課題または日本人独自の技術を高めることによってすぐにも達成できるレベルに到達していると考えられる。

◇雑感

大会前までに、入賞ラインまで届きそうになっていたのが男子走高跳の衛藤昂であったが、入賞はならなかった。その他の出場種目に関して、入賞を想定した選手の意識付けや実力も到達しなかった。強化としては意識付けを変えることはできる。また、デレゲーションで渡航する環境に不満を漏らす選手もいたことから日本代表としての自覚や影響を考えることも必要であると感じた。

世界でメダルおよび入賞するためには、ハードル、障害種目のように複合的要素が絡み合う種目に関して十分戦える可能性を残していると感じた。適応するタレントを見つけ、トランスファーさせる積極的強化策を講じることも必要であると感じた。「メダルターゲット(長距離・マラソン)」

マラソン強化戦略プロジェクトリーダー 瀬古利彦

長距離・マラソンディレクター 河野匡

◇ロンドン世界陸上を振り返って(マラソン強化戦略プロジェクトリーダー 瀬古利彦)

期待と不安のなかプロジェクトリーダーとして初のレースであるロンドン世界陸上へ臨みました。事前合宿では練習を視察し、順調に練習を消化している選手や、故障で悩んでいる選手の様子を見て現場の大変さも改めて実感した次第です。

ベテラン、若手とバランスよく編成でき、男女とも全員がスタートラインに立てたので、メダル1、入賞1を目標としました。

結果的には入賞すらできず、みなさんのご期待に添えなかったことをリーダーとして大変申し訳なく思っております。川内選手9位、中本選手10位とベテランの力に頼らざるを得なかった結果と、若手の経験不足を露呈する結果となってしまいました。

現状の力に近いパフォーマンスを出せばメダルも入賞も可能であるのに、力を発揮できないのは非常にもったいないことでもあります。特に若手にはマラソングランドチャンピオンシップの出場権を今年度中に獲得していただき、来年度の海外マラソンの経験や思い切った練習をする準備期間にぜひ充ててほしいと思います。

◇長距離・マラソン総括(長距離・マラソンディレクター 河野匡)

大会前に各専任コーチから上がってきたコンディショニング報告から、男子マラソンと女子10000mに入賞のチャンスがあると考えていた。

男子マラソンは3名とも順調にトレーニングを消化し、事前合宿地のセントメアリーズ大での仕上がりが良かった。川内のこの大会にかける意気込み。中本のマイペースの調整ぶり。井上のあふれる緊張感は三者三様ではあったが好調さが伺えた。入賞に届かなかったのは悔しいが、北京世界選手権、リオデジャネイロオリンピックと成績が振るわなかったことで、男子マラソン復活の兆しが見えてきたと評価したい。

女子マラソンは力のある若手、安藤、清田と経験豊かなベテラン重友が選ばれバランスの取れたメンバー構成となり期待をし

ていたが、プレッシャーと調整不足により11大会ぶりの入賞なしとなった。実力的には世界レベルにあるので、戦い方、調整方法を見直すと共に、国籍変更選手やアメリカ勢のレベルアップで競争が激化してきた事を認識し、今後の強化策を検討したい。

女子10000mは持てる力を十分に発揮した。序盤の超スローペースから急激なペースアップがあり、日本選手が一番苦手の展開になったが最後までしっかり戦えたと評価している。5000mも同様で予選敗退となったが持てる力を発揮した。

「大きな舞台で100%実力を発揮する」この事が最も重要で、最も難しいのが国際大会である。しかしそれが出来れば十分戦えることは今大会の結果が示している。

2020東京オリンピックを見据えてロンドン世界選手権で得た経験を生かすべく選手、スタッフが協働する体制づくりをしていきたい。

各強化コーチからの詳細報告は以下のとおり。

1) 男子マラソン

(男子マラソンオリンピック強化コーチ 坂口泰)

1人は入賞という目標をもってレースに挑んだが、残念ながら目標を達成することができなかった。しかし、川内、中本については、力を出し切ったレースであったと評価できる。現状のチャンピオンシップレースでは、前半はスローペースながらも揺さぶりをかけ、後半の早い時点でメダルを目指すグループが一気に仕掛けたといった展開が主流である。しかし、2人は前半から消耗を強いられる展開に乗らず、入賞ラインに入るため自らの強みをいかしたレースマネジメントを行うことを選んだ。結果的に9位、10位と惜しくも入賞することができなかったが、最善のレースをすることができたといえる。井上は前半から積極的にレースの流れに乗っていった。このことが後半の消耗を招くことになったが、世界選手権初挑戦の若手がこの流れに乗らないという選択肢はなかったと思う。この経験を糧にし、東京オリンピックに向けマラソン選手としての成長を期待したい。

2) 女子マラソン

(女子マラソンオリンピック強化コーチ 山下佐知子)

先頭集団の中間点の通過が1時間14分53秒、25km～30kmのラップが17分35秒、30km～35kmが17分55秒でここまでは日本代表3選手も余裕を持ってつけるはずのスローな展開だったが、35kmまで先頭につけたのは清田だけだった。その清田も何度も遅れそうになりながら集団についている状態で、35km以降のペースアップには全く反応出来ず、逆に18分台にラップを落としてしまった。

コース的にも展開的にも記録は全体的に低調だったが、本大会での力の発揮度を自己ベストとの比較でみると、日本代表3選手については、清田6分49秒、安藤9分55秒、重友12分40秒遅れと言う結果で9人の平均は9分48秒であった。これに対してメダリスト3人の平均は3分45秒、入賞者8人は5分54秒遅れで、日本選手は本大会において力の発揮度が低いと言わざるを得ない。力不足ではなく、力を発揮出来てない事に大きな問題がある。

安藤にとっては2回目のマラソン、清田にとっては3回目のマラソンで兩名とも今回は初の海外レース、初の日本代表、初の夏場のマラソンであり経験不足がマイナスに働いたという面があった。重友についてはオリンピック、世界選手権経験者であり、レース後半の失速状況から考えるとコンディショニングのミスが原因である。3選手とも、現地入りしてからの調整は順調だっただけに、そこに至るまでのトレーニングやレースの中で実践的な感覚を磨く必要がある事を痛感した結果であった。

3) 女子長距離(女子長距離マラソンオリンピック強化スタッフ 高橋昌彦)

10000mについては8位入賞を目標とした。レースは1周400mが90秒のスローペースで始まる中、鈴木は、序盤3700mあたりでレースが動いた際、集団の後方に位置してしまって8位入賞を狙う集団から2～3秒程遅れてしまった。その後73秒前半から72秒のラップにペースアップして集団を追いかけ、

5000m～6000mの1000mラップは3分02秒。6400m付近で集団を捕まえることができた。8600mから6～11位の集団の先頭に出て、1周のラップを71秒後半から72秒前半にペースアップし後続の引き離しを図ったが、突き放すことができなかった。結局、ラスト1周のスパートでスピード負けし、10位という結果に終わった。(集団最上位はラスト400m63～4秒)しかしながら、8位まで2秒52の僅差の10位は価値のある結果であり、特に後半の5000mは15分17秒04というハイペースで走りきれたことは、十分に世界大会で入賞争いができる力を示したといえる。

唯一心残りな点は、レースが動いた時の位置取りが後半過ぎたことである。あくまで結果論ではあるが、集団内で走っていたらラスト400mのスパートの反応が良かったかもしれない。

松田は2000m以降のペースアップには反応出来たが、2000m～4000mのラップ6分10秒への対応が精一杯であった。記録的には前半のスローペースだったことも考慮すると、現状の力は発揮したと言える。

上原は、序盤は良い位置につけていたが、スピード変化に対応できず中盤からは粘りのレースとなった。結果は不意だろうが、リオデジャネイロオリンピックに続いて日本代表になったことは大きい。この経験を今後に繋げてもらいたい。

5000mは鈴木、鍋島揃っての予選突破を目標とした。日本選手の中ではラストのスピードがある鍋島であるが、世界の中で見た場合にはラスト勝負は不利と考え、レース前半から先頭集団に位置するようにし、スローペースの場合には、自ら73秒～74程度のペースを作り、いつでも急激なペースアップに対応できるよう指示していた。後半3000mを9分00秒16でまとめたが全体の16番目で決勝進出を逃した。第2集団の中で最後まで諦めずに走り抜き、自己ベスト記録を更新したことは評価できる。

鈴木は10000mのレースから中4日の5000m予選。レース前半から集団の上位ポジションを確保し、ペースアップに備えたが、結果的に全く反応できずに終わった。考えられる原因としては、10000mからの疲労が抜けていなかった事。10000mと5000mの2レースを世界レベルで走りきる準備が出来ていなかったと考えられる。

ラスト1000mは2分45秒。プラス上位5位以内で通過するためには2分51秒で走りきる必要があった。今の日本人選手で、ラスト1000mを2分50秒以内で走ることは難しい。鍋島の今回のラスト1000mの2分54秒90は、スローペースだった今年の日本選手権でのラスト1000m(2分53秒1)と比較しても、十分に力を出し切った結果と言える。

予選突破にはラスト1000m 2分50秒を切って走れるスピードをつけること。又は、一人でも1000m 3分のペースで押せるスピード持久力をつけることが必要である。

2020年の東京五輪は今回のロンドンのような好コンディション(気温20℃湿度49%)は考えられないため、高温多湿の状況下ではスローな展開が予想される。しかし高温多湿なコンディションであっても1000mを3分で押し切る力があれば、決勝進出の目標を達成できる可能性があり、その上で、ラスト1000mにおいて2分50秒以内で走る力をつければ、8位入賞も見えてくる。さらにはメダル獲得となると、2分40秒前半の争いになることは間違いない。

今後の対策としては、5000mを3600m+1500m、あるいは4000m+1000m、さらには4600m+400mと分割して考え、スピード持久力を高めながら、スプリント能力を高める取り組みを考えていきたい。

◇まとめ(長距離・マラソンディレクター 河野匡)

ロンドン世界選手権の結果を踏まえ、東京オリンピックに向けての現状把握と課題抽出はできた。結果的にメダル、入賞なしに終わったが、マラソン選考要項の変更(MGC)と長距離での3000m走力アップへの取り組みが必要な施策だと確信持った次第である。オリンピックまで3年を切った。マラソンメダル獲得、10000m8位以内入賞、5000m決勝進出の目標達成に向けて更に強化していきたい。

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2017大会報告

強化委員会 男子長距離オリンピック強化コーチ 綾部 健二

1. 大会コンセプト

「開催都市の観光促進、地域振興に繋がり、住民に喜ばれるイベントとして中長距離シリーズを開催し、国際競技会で活躍できる中長距離選手の育成・強化を図る。」

2. 大会日程

- 第1戦 7月2日(日) 士別大会(士別市陸上競技場)
- 第2戦 7月6日(木) 深川大会(深川市陸上競技場)
- 第3戦 7月9日(日) 北見大会(北見市東陵公園陸上競技場)
- 第4戦 7月13日(木) 網走大会(網走市営陸上競技場)

3. 大会成績

本シリーズは、世界陸上競技選手権ロンドン大会の参加標準記録として認められる指定競技会であり、日本選手権3位以内の選手が参加資格を目指して積極的なレースを行った。

男子3000mSCにおいて1名の突破者は出たものの、異常気象とも言える猛暑によりシリーズ全般としては低調な記録に終わった。自己ベスト・シーズンベストの達成率は、14.60%であった。

※2015年 33.69%、2016年 22.76%

(1) 士別大会

日本陸上競技選手権から1週間後ということもあり、参加選手は他3大会に比べると少数であった。

女子5000mはKIM, DO YEON選手(韓国)が鋭いスタートで優勝、男子5000mは久井原歩選手(黒崎播磨)が粘り強く走り抜き日本人トップの2位でゴールした。

また、メインレース前にはサブイベントである小中高生を対象にした「士別ディスタンス」が開催され大会を盛り上げた。

※参加選手 95名

男子: 1500m、3000m、5000m

女子: 1500m、3000m、5000m

PB・SB達成率 22.11%

天候 曇 / 気温 20.7℃ → 16.6℃ / 湿度 87% → 98% / 風速 0.1m → 0.6m

(2) 深川大会

男子5000mで大六野秀敏選手(旭化成)が世界陸上の参加標準記録に挑戦した。3000mを8分1秒で通過し記録への期待が高まったが、それ以降はタイムが伸びず参加標準記録の突破はならなかった。男女の10000mについても暑さの影響からペースを維持できず、好記録は生まれなかった。

※参加選手 284名

男子: 1500m、5000m、10000m

女子: 1500m、3000m、10000m

PB・SB達成率 14.79%

天候 晴 / 気温 27.0℃ → 23.0℃ / 湿度 63% → 75% / 風速 2m → 0.4m

(3) 北見大会

東京五輪を見据え日本陸連の重点強化種目として男女3000mを実施した。7分55秒を目標に設定した男子では鑑坂哲哉選手(旭化成)が7分52秒70で優勝、3位までが7分55秒をクリアした。3位に入った遠藤日向選手(住友電工)は7分54秒79でU20日本新記録を樹立した。8分台を目標とした女子は松崎璃子選手(積水化学)が日本歴代2位の8分49秒61の好記録で優勝、2位には一山麻緒選手(ワコール)が8分53秒54で続いた。

また、この大会からは中距離種目で韓日交流事業が始まるとともに男女5000m競歩、男女視覚障がい5000mなどが行われた。

男子800mにはロンドンオリンピック1500m銀メダリストのLeonel Manzano選手(アメリカ)が出場、後半猛烈な追い上げで2位に入る力走を見せた。

今年度から実施された視覚障がい5000mには、昨年度のリオデジャネイロパラリンピックで活躍した道下美里選手(三井住友海上)や堀越信司選手(NTT西日本)など多くの選手が出場し、大きな声援を受けた。

※参加選手 369名

男子: 800m、1500m、3000m、5000m、5000mW、

T11 ~ T13・5000m

女子: 800m、1500m、3000m、5000m、10000m、5000mW、T11 ~ T13・5000m

PB・SB達成率 23.04%

天候 晴 / 気温 30.0℃ → 25.0℃ / 湿度 47% → 54% / 風速 1.5m → 1m

(4) 網走大会

世界陸上の参加標準記録として認められる最後の指定競技会となった今大会は、最高気温が36.5℃まで上がる猛暑の中、11時30分に競技が開始された。

男子1500mは小林航史選手(筑波大学)が今年度日本ランキング1位となる3分41秒81の好記録で優勝した。

幾分気温が下がりはじめた18時10分から行われた女子3000mSCでは高見澤安珠選手(松山大学)がスタートからハイペースでラップを刻んだ。2000m通過は参加標準記録のペースを上回ったが、最後にペースダウンし突破とはならなかった。

続いて行われた男子3000mSCはペースメーカーのKIPLAGAT Philemon(倉敷高校)を先頭にイーブンペースでレースが進んだ。日本選手権優勝の潰滝大記選手(富士通)は最後までしっかりとまとめ8分29秒05の自己新記録で参加標準記録を突破した。

男子5000mは日本選手権優勝の松枝博輝選手(富士通)が最後まで諦めずに参加標準記録に挑んだが、突破できずに悔しい結果となった。

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2017を締めくくる最後のレースとなった男子10000mには日本選手権1位から3位の選手が顔を揃えた。その中でも特に注目を集めた大迫傑選手(Nike ORPJT)は5000mを13分45秒で通過、参加標準記録はおろか日本記録の更新まで期待させた。しかし、暑さの中で8000m付近から大きくペースダウンし、27分46秒64でのゴールとなった。参加標準記録には惜しくも1秒64足りなかった。

※参加選手 560名

男子: 800m、1500m、5000m、10000m、3000mSC、

10000mW、T11 ~ T13・1500m

女子: 800m、1500m、3000m、5000m、3000mSC、

10000mW、T11 ~ T13・1500m

PB・SB達成率 7.68%

天候 晴 / 気温 36.5℃ → 25℃ / 湿度 68% → 76% /

風速 2.5m → 0.7m

4. 今後の課題

ホクレン・ディスタンスチャレンジも今年度で15回目の開催となった。現状の4大会開催は2011年から7回目となる。年々増加傾向にあった参加総数はここ3年間で1300名前後とほぼ安定している。

ただ、開催地別に見ると競技運営に支障が出るほどに偏りが発生している現状もある。

この偏りを解消する方策として下記のことを検討してみた。

- (1) 開催順序と種目配置の見直し
- (2) グレード分けの導入(GP I・GP II)
- (3) 大会の増設(4大会 → 5大会)
- (4) 1大会2日間開催

5. 最後に

ホクレンをはじめとする協賛各社・団体、開催都市、主催および主管陸協のご支援、ご協力により大会が開催できましたことに心より御礼を申し上げます。



第4戦・網走大会の3000mSCで世界選手権標準記録を突破した潰滝大記(富士通)

世界パラ選手権・世界選手権 競技運営視察報告

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを見据え、国際競技会の競技運営を参考にする目的で、本連盟は、競技運営委員会及び施設用器具委員会の委員をロンドンで開催された表記2選手権大会に派遣した。

イギリス陸連及び組織委員会の配慮で、派遣されたメンバーは競技運営の各部署に配属され地元の競技役員と行動を共にするなかで視察をおこなった。

派遣された委員及び配属部署はつぎの通り。

◆世界パラ選手権

関根春幸：投てき審判員（座位投てき）

杉本太郎：競技者係

◆世界選手権

鈴木一弘：競技ディレクター

高木良郎：技術総務

梶田茂：競技者係

井上博行：競技者係

片岡裕介：イベントプレゼンテーション

関隆史：スタートチーム

以下、杉本委員と片岡委員による報告である。



〈世界パラ陸上競技選手権大会（2017/ロンドン）視察報告〉

競技運営委員会・JTO 杉本太郎

表記の大会の視察について、以下のとおり報告いたします。

会場：ロンドン クイーンエリザベスオリンピック競技場

期日：2017年7月17日（月）～7月22日（土）（競技会参加等：7/18～7/20 ＊大会期間7/14～7/23）

担当：競技者係（コールルーム）

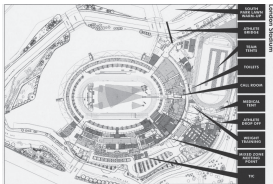
コールルーム環境

①場所は、競技場第1～第2コーナーの中間でサブトラックは、目の前にあった。

②競技場の通路の一部をコールルームとして区切り、選手以外（ガイド、アシスタントを除く）出入りができない、また外部から声が掛けられないようになっていた。

③コールルーム内は、カテゴリーや人数によって必要な広さが違うので、簡易間仕切りで広さが変更できるようになっていた。

④選手権で登録されたチームユニフォーム等の服装、競技者の使用器具（義足、座位投てき台等）をチェックできるように、



入口が開いた状態。係員が対象レースの競技者なのかチェックしていた

全てを撮影した写真帳を完備していた。

作業内容等

①体制は、審判長1、主任1、主任補佐1、5人（班長1、係員4）×6班、スタートリストの印刷責任者1のほか、ナンバーカード再発行時の印刷員1、コールルームの入口の開閉を音声放送で案内するアナウンス1、コールルームの入口の開閉をデジタルサイネージで表示する操作員2

②競技前のミーティングについて、すでに4日間の日程が終わっていたが、基本事項の確認を行い、前日に起こった注意事項の伝達も確実に行われていた。

③コールルームの入口は、サブトラックへ表示と放送を行い、各競技ごと（複数の組がある場合は各組ごと）に開閉していた。また、コール対象が複数あり、完了時刻でも入口が閉められない場合は、入口のところで係員が確実にチェックし、完了時刻を過ぎた競技者は入室させなかった。開始時間より早く来た競技者も入室させなかった。

④健康者には無い機器類のチェック

- ・座位投てき台のチェック
- ・車いす（レーサー）のチェック
- ・カテゴリー T11、F11の競技者のアイパッチの密着具合をチェック

⑤持ち込み禁止物品が見つかった場合、競技者係で預かりミックスゾーン脇のポストイベントコントロールルームで返却を行っていた。

預かるときは、各競技ごと（複数の組がある場合は各組ごと）に一覧表を作り、預かり品名を競技者係が記入、本人が確認のサインを記入し、プラスチックケースに預かり品、一覧表を入れて競技者係が運搬していた。

⑥ガイドランナー、アシスタントのピブスについて、ADカードと引き換えで、競技者係で配布。ADカードの返却も、ミックスゾーン脇のポストイベントコントロールルームで行っていた。

⑦入れ墨に関してもチェックを行っており、面積が大きい場合は隠されていた。

⑧車いす用のヘルメットに付けるレーンナンバーは、写真判定で読み取り易くなるように、貼る角



1・2コーナー側デジタルサイネージ。3・4コーナー側にもあり



デジタルサイネージ用PCとアナウンスマイク

Call	Event	Start	Time	Category	Event	Event
10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00
10:15	10:15	10:15	10:15	10:15	10:15	10:15
10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30
10:45	10:45	10:45	10:45	10:45	10:45	10:45
11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
11:15	11:15	11:15	11:15	11:15	11:15	11:15
11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30
11:45	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45
12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	12:00
12:15	12:15	12:15	12:15	12:15	12:15	12:15
12:30	12:30	12:30	12:30	12:30	12:30	12:30
12:45	12:45	12:45	12:45	12:45	12:45	12:45
13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00
13:15	13:15	13:15	13:15	13:15	13:15	13:15
13:30	13:30	13:30	13:30	13:30	13:30	13:30
13:45	13:45	13:45	13:45	13:45	13:45	13:45
14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00
14:15	14:15	14:15	14:15	14:15	14:15	14:15
14:30	14:30	14:30	14:30	14:30	14:30	14:30
14:45	14:45	14:45	14:45	14:45	14:45	14:45
15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	15:00
15:15	15:15	15:15	15:15	15:15	15:15	15:15
15:30	15:30	15:30	15:30	15:30	15:30	15:30
15:45	15:45	15:45	15:45	15:45	15:45	15:45
16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	16:00
16:15	16:15	16:15	16:15	16:15	16:15	16:15
16:30	16:30	16:30	16:30	16:30	16:30	16:30
16:45	16:45	16:45	16:45	16:45	16:45	16:45
17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	17:00
17:15	17:15	17:15	17:15	17:15	17:15	17:15
17:30	17:30	17:30	17:30	17:30	17:30	17:30
17:45	17:45	17:45	17:45	17:45	17:45	17:45
18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00
18:15	18:15	18:15	18:15	18:15	18:15	18:15
18:30	18:30	18:30	18:30	18:30	18:30	18:30
18:45	18:45	18:45	18:45	18:45	18:45	18:45
19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	19:00
19:15	19:15	19:15	19:15	19:15	19:15	19:15
19:30	19:30	19:30	19:30	19:30	19:30	19:30
19:45	19:45	19:45	19:45	19:45	19:45	19:45
20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00
20:15	20:15	20:15	20:15	20:15	20:15	20:15
20:30	20:30	20:30	20:30	20:30	20:30	20:30
20:45	20:45	20:45	20:45	20:45	20:45	20:45
21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	21:00
21:15	21:15	21:15	21:15	21:15	21:15	21:15
21:30	21:30	21:30	21:30	21:30	21:30	21:30
21:45	21:45	21:45	21:45	21:45	21:45	21:45
22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	22:00

TIC脇に貼られたコール（ルーム）日程表



コールルームに貼られ持ち込み禁止物品一覧

度に注意を払っていた。

⑨ナンバーカードの再発行については、競技者係で行っていた。汚れている、破れている等競技者係、又はナンバーカード再発行時の印刷員が確認し、映像（放送）に影響があると判断した場合は、その場で取り換えていた。

⑩フィールド競技のコールについて、日本では競技前の注意事項は競技場所で行っているが、ここではコールルーム内でフィールド審判員の主任が説明していた。

例：競技場所でのトイレオーダー、マークの数、3回終了後のTOP8の競技等

その他

①サブトラックについて、1レーンの内側には縁石が無く、また、曲走路は1・2レーンには無く3レーンから外側に設置され、インフィールドの芝生の部分を大きくする工夫がなされていた。



サブトラック第1コーナー入口付近

最後に、関国際専任部長のご尽力により、競技役員として競技場の中から視察できる機会をいただき、貴重な体験ができたことを感謝いたします。

英会話ができない状態で飛び込んでみて、単語とジェスチャーで何とかしたかったのですが、聞き取りができないことでの確かな単語がすぐには声に出てこないことを痛感し、また、英会話ができないことには、意志疎通が難しいことをとても実感しました。

〈世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)視察報告〉

競技運営委員会・JTO 片岡裕介

〇はじめに

- ・期間：2017年8月11日～15日（Day8～10）
- ・視察目的：国際大会でのイベント・プレゼンテーション（EP）および競技進行に関して
- ・英国陸連Chris Cohen氏の取り計らいで、競技役員（National Technical Officials）としてADが発行され、現地競技役員と一緒に運営に関わる機会を得て、生の現場を経験。

〇イベント・プレゼンテーション（EP）とは

- ・競技規則第124条に〔国際〕イベント・プレゼンテーション・マネージャー（EPM）として規定され、「競技会の演出」に関わることであることは理解できる。その内容についてはIAAF Technical Delegate Guideline(2013/12)に「Event Presentation (or Sport Presentation as it is sometimes referred to) aims to Educate, Engage and Entertain live audiences at athletics meetings. (意訳:EPは競技場で観戦する観衆が競技を理解し、一体感を覚え、楽しんでもらうことを目的とする)」とあるように、国際大会ではより観衆目線の競技会の盛り上げ、観衆に飽きさせないことを意識している点に留意する必要がある。
- ・日本でもファンファーレや音楽を流して選手紹介をし、優勝者インタビューを行う等のEPの取組みが行われているが、ロンドンではEPに対する考え方や競技運営そのものが異なる点が多く見られた。

〇ロンドン世界陸上でのEP

①関係者

- ・進行担当総務員の役割の Competition Controller（以下CC、英国陸連）2名とEPM（コンサルタント、実際は英国陸連以外の3名が担当）、アナウンサー（プロのアナウンサー、英語・仏語）3名。
- ・EP関係の各種技術関係者（音響、映像、グラフィックス担当等）、HB（TV局）との連絡要員、競技エリアでEPM指示の伝達要員。
- ・尚、各技術関係者は他のIAAFの大会でもチームを組む（同一メンバー）。

②関係者配置場所

- ・正面スタンド上部、フィニッシュライン延長線上にCC、EPM、アナウンサーが同一エリアに着席。
- ・各種技術関係者も近接した場所で作業。

③CCとEPM

- ・CCは競技運営そのものに対して責任を持ち、関係競技役員への指示や確認を行なう。
- ・EPMは競技会の進行と盛り上げの演出の責任を負い、EP関係者に対して指示。
- ・競技会の情報（競技面、演出面）が全て両者に集約され、相互に協力しながら競技会を進める体制。
- ・但し、競技進行の権限はEPMが持ち、その指示がなければ競技は開始されず、競技が重なった時の優先順位（例：スタートが先か、跳躍が先か）もEPMが指示。HBもEPMの判断を尊重。
- ・「観衆の目に見える全ての動きはEPMの指示による」「CCは競技そのものがきちんと行えるように審判員を動かす。競技進行のタイミングはEPMの指示に従う」という考え方のよう受け取れた。
- ・CCとの会話の中でEPMのことを「Producer」と表現したことがあり、「陸上競技会という演目を制作、演出しているのがEPM」といった意識があるようにも感じられた。

④EPプラン

- ・IAAFの公式文書として綿密に計画、事前に作成され、関係者全員が共有。
- ・種目毎の選手紹介のやり方、所要時間、大型映像内容、アナウンサー内容、フィールド競技のOne by Oneの選手の並べ方、TVカメラの位置、その他演出等について概要（パターン）を明示。
- ・個別種目のEPの詳細はEP関係者のみで共有。EPMが管理番号を指示すれば、全体がスムーズに流れていく仕組みを構築。

⑤特徴的なEPコンテンツ（演出）

- ・イギリス軍音楽隊によるフィールド競技選手紹介ファンファーレ。伝統的英国らしさを演出。
- ・陸上競技の経験、知名度のあるアトランタオリンピック銀メダリスト・英国出身のIwan Gwyn Thomas氏を競技エリアでのレポーターに起用。
- ・LED装飾の入口、フィニッシュ時のガスフレーム（炎）、花火による視覚的演出。
- ・競技が行われていない時間帯に場内カメラで観衆を映し、軽快な曲に合わせて「DANCE CAM」(ダンス)、「KISS CAM」(キス)等を求め、一体感の醸成、ノリノリにさせる演出、飽きさせない工夫。
- ・マスコットキャラクター（HERO）が競技エリア内外を縦横無尽に動き回り、場内全体を盛り上げ。英国伝統の「道化師」役とも考えられ、英国文化や国民性が色濃く表れている演出。

〇おわりに

- ・EPMが「見せる（魅せる）陸上競技会のプロデューサー」の位置付けに近く、関係者がその点を共通理解の上、競技会が行われていることを認識した。
- ・あわせて、観衆の反応を確かめながら何を優先して競技会を進めていくか、「選手が主役、観衆との一体感も重視」という時に相容れない視点をどのように整合させていくかという、EPMとして難しい判断を迫られる場面も見ることができた。



科学委員会活動報告(日本グランプリシリーズ、日本選手権など)

高橋恭平・広川龍太郎・杉田正明(科学委員会)

1. 活動内容

科学委員会は、本年度も以下の主要競技会におけるパフォーマンスデータの測定および分析を行っている。各競技会において、データ分析が終了したところから順次、強化現場へのフィードバックが行われている。

- 1) 第65回兵庫リレカーニバル(兵庫/ユニバー記念) 4月23日
- 2) 第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会(広島/広域公園) 4月29日
- 3) 第33回静岡国際陸上競技大会(静岡/エコパ) 5月3日
- 4) セイコーゴールドングランプリ陸上2017川崎(神奈川/等々力) 5月21日
- 5) 2017布勢スプリント(鳥取/コカ・コーラウエスト) 6月4日
- 6) 第101回日本陸上競技選手権大会混成競技(長野/長野市営) 6月10~11日
- 7) 第101回日本陸上競技選手権大会(大阪/長居) 6月23~25日
- 8) 2017年世界陸上競技選手権大会(ロンドン) 8月4~13日

科学委員会の各担当者は次の通りである。

[ゴールドターゲット]

男子100m・200m・4×100mR:小林海、広川龍太郎
 男女競歩:三浦康二

[メダルターゲット]

男子400mH:森丘保典 男子棒高跳:高松潤二
 男女やり投:村上雅俊

[Top8ターゲット]

男子400m・4×400mR:高橋恭平

女子4×100mR:松尾彰文

男子800m・男女3000mSC:榎本靖士

男子走幅跳・三段跳・走高跳:小山宏之

男子110mH:貴嶋孝太 男子十種競技:松林武生

[ワールドチャレンジ]

女子ハードル:貴嶋孝太 男女中距離:榎本靖士

男女投擲:村上雅俊・田内健二

女子跳躍:小山宏之(女子棒高跳:高松潤二)

女子七種競技:松林武生

[強化育成]

U20:榎本靖士、松林武生

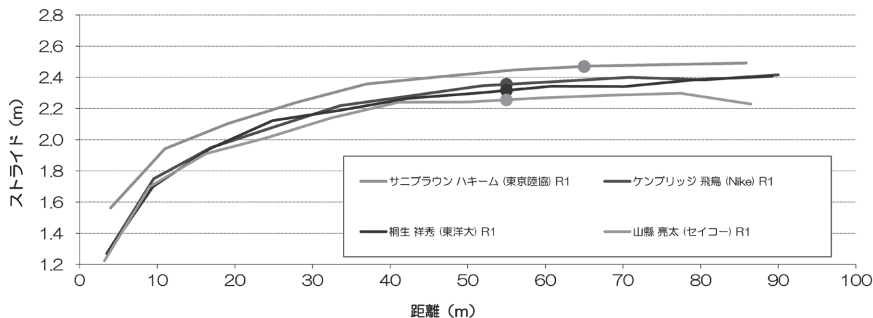
ダイヤモンドアスリート:松林武生・持田尚

[マラソン強化戦略]

男女マラソン・長距離:杉田正明

2. 競技会におけるパフォーマンスデータの事例紹介

図1~3は第101回日本陸上競技選手権大会(大阪/長居)における男子100mのレース分析結果を示している。選手権者となったサニブラウン・ハキーム選手(東京陸協)は予選から全てのラウンドで10秒0台を記録し、決勝は10秒05であった。その決勝レースの最高疾走速度は11.52m/秒(55m地点で出現)で、ファイナリスト8名中最も高かった。このことから、従来の報告と同様に、最高疾走速度の高さはパフォーマンス(記録・順位)の高さと密接な関係にあることがわかる。また、サニブラウン・ハキーム選手の予選と準決勝はほぼ同じ風条件の中、共に10秒06の同記録で最高疾走速度もほとんど同じであったが、最高疾走速度の出現区間が異なっていた(図1および2)。レース内容を科学的に解さばぐし、選手やコーチの感覚とのすり合わせを行うことで、パフォーマンス向上への寄与を目指している。



選手名	ラウンド	記録	風	最高速度	出現区間	歩数
サニブラウン ハキーム (東京陸協)	R1	10.06	+0.4	11.46m/s	65m	44.5歩
ケンブリッジ 飛鳥 (Nike)	R1	10.08	-0.9	11.56m/s	55m	47.2歩
桐生 祥秀 (東洋大)	R1	10.15	+0.2	11.43m/s	55m	47.3歩
山縣 亮太 (セイコー)	R1	10.24	+0.0	11.27m/s	55m	48.9歩

※ F1: 決勝、SF: 準決、R1: 予選

※ 歩数はピッチ分析を行った選手のみ

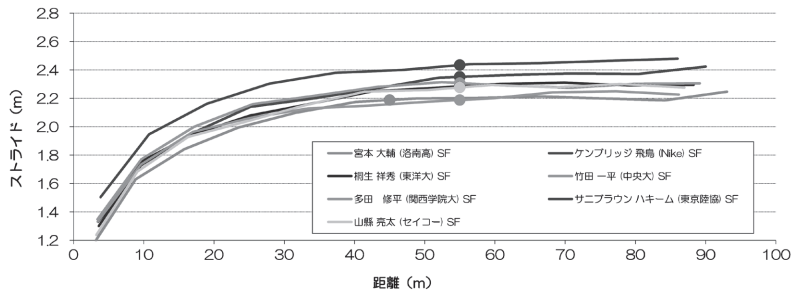
図1 日本選手権男子100m予選における4選手のレース分析結果

また、2位であった多田修平選手（関西学院大）と3位のケンブリッジ飛鳥選手（Nike）の準決勝の記録は共に10秒10であった。風条件は若干異なるものの、2選手の最高疾走速度は、それぞれ11.37m/秒（55m地点で出現）と11.50m/秒（55m地点で出現）であり、同水準の記録であってもレース内容が異なっていることが分かる（図2）。このように、個人の特徴を見た目だけでなく、数値的な評価を行うことで、選手およびコーチのトレーニングやレースに対する戦略的検討の一助を担っていると云えよう。

3. おわりに

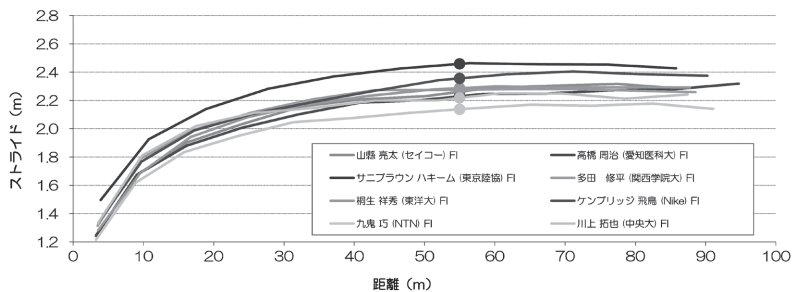
本年度は科学委員会メンバーを35名に増員し、生理、バイオメカニクス、トレーニング、医学、栄養、心理、気象、科学情報など幅広い分野の専門家によって委員会を構成した。本稿で示した競技会におけるバイオメカニクスデータ

を基にしたパフォーマンス分析を積み重ねながら、強化現場に密着した支援活動を展開しており、ロンドン世界陸上においても新たな気象情報の提供も含めて活動を実施した。マラソンでは、暑熱対策の具体的方策の確立に向け、8月17日から東京で合宿を行い、トップ選手を対象とした距離走中の生理学的データの収集を実施した。3年後に向けたこうした取り組みは貴重であり、トラック&フィールドの選手へも応用可能であると考えている。今後も幅広い分野の科学的専門家集団として、2020年及びポスト2020を見据えた戦略的かつ包括的な選手支援活動の充実を図る予定である。



※ FI: 決勝, SF: 準決, R1: 予選 ※ 歩数はピッチ分析を行った選手のみ。

図2 日本選手権男子100m準決勝における7選手のレース分析結果



※ FI: 決勝, SF: 準決, R1: 予選 ※ 歩数はピッチ分析を行った選手のみ。

図3 日本選手権男子100m決勝における8選手のレース分析結果

山澤文裕 本連盟理事・医事委員長 国際陸上競技連盟 (IAAF) 功労章 受章

2017年8月1日、日本陸上競技連盟理事・山澤文裕医事委員長が、国際陸上競技連盟 (IAAF) より、功労章 (プラーク・オブ・メリット / Plaque of Merit) を受章いたしました。

山澤理事・医事委員長の陸上競技の発展に対する永年の貢献に、アジア陸上競技連盟の推薦を受け、同章が授与されました。

【IAAF 功労章について】

IAAF 功労章は、地域陸上競技連盟 (6 地域陸上競技連盟: アフリカ、アジア、ヨーロッパ、北・中央アメリカ・カリブ海、オセアニア、南アメリカ) 傘下において、世界の陸上競技活動に永年貢献し、地域陸連から推挙された者、1名ずつに、2年に1度、授与されるものです。

なお、日本人による同章の受章は、1995年に受章した故・安田誠克氏 (元日本陸上競技連盟名誉副会長) 以来二人目です。



IAAF Plaque of Merit 受章について

この度、世界陸上ロンドン大会直前の8月1日に開催されたIAAF kongressディナー席上において、IAAF セバスチャン・コー会長よりIAAF Plaque of Merit をいただきました。これは陸上競技の発展に対して永年の貢献があったとする功労章で、2年に1度、6地域陸上競技連盟から1名ずつIAAFより表彰されるものです。当方のこれまでの国際的な活動を評価し、アジア陸連がIAAFに対して推薦した、とアジア陸連関係者より伺いましたが、日本を含めアジア各国に諸先輩が多数おられるなかで、横川会長よりご連絡を受けた際は、章そのものの意義、受章理由がなかなか理解できず、まさしく青天の霹靂でありました。

振り返れば、確かに長い間、国内外の陸上競技の医事およびアンチ・ドーピングにかかわってまいりました。1997年に浅野真先生の後任として日本陸連医事委員長を委嘱され、2001年からアジア陸連医事委員、委員長代行、そして2003年からIAAF医事アンチ・ドーピングコミッション委員に任命され、IAAFのルール作り、メディカルマニュアル作成、アンチ・ドーピング活動、そして世界ジュニア陸上、世界クロスカントリー、世界競歩、世界ハーフマラソン、アジア大会、アジア陸上、ダイヤモンドリーグなど数多くの国際競技会で医事代表、アンチ・ドーピング代表を務めてきました。また、2007年世界陸上大阪大会の医事アンチ・

ドーピング委員長をはじめ、1991年世界陸上東京大会医務委員、2006年世界クロスカントリー福岡大会アンチ・ドーピング委員長、2011年アジア陸上兵庫大会医事アンチ・ドーピング委員長、東京マラソン医療救護委員長などとして大会運営にかかわってまいりました。そのような活動を通して、IAAFおよびアジア各国の陸上競技関係者とのつながりが深まり、お互いの信頼も強くなりました。現在は、IAAFヘルス&サイエンスコミッション委員 (以前の医事アンチ・ドーピングコミッション委員) に任命され、IAAF委員として15年目を迎えました。

しかし、今回の受章の榮譽は何といても日本陸連および諸先輩が築き上げてこられたIAAFおよびアジア陸連との良好な関係があつてのことであり、日本陸連および陸上競技関係の皆様、医事およびアンチ・ドーピング関係の皆様、そして永年にわたり支えてくださった皆様とともに受章させていただいたと思っております。どうぞ、一緒に喜んでいただきたいと思っております。

今後とも、世界における日本陸上のプレゼンスを高めていけるように努めてまいります。引き続き、ご協力いただければ幸いです。

公益財団法人日本陸上競技連盟
理事・医事委員長 山澤 文裕

施設用器具委員会報告(2017-1)

施設用器具委員会

◆2017年度に公認した競技場及び長距離競走路

- (2017.04.06～2017.07.19)
- 9354 都留市総合(運)やまびこ 山梨県都留市上谷細工橋2111
第3種 400m 全天候 継続 2017.04.29～2022.04.28
- 9355 観音寺市総合(運) 香川県観音寺市池之尻町1071の3
コード番号 0362060
第3種 400m 全天候 新設 2016.05.12～2021.05.11
- 9356 金沢(ハ) 西部緑地公園(陸)～
▽21km0975 10km 自転車計測 循環 継続
2017.04.01～2022.03.31
- 9357 釧路市民(陸) 北海道釧路市広里13の1の2
第2種 400m 全天候 継続 2017.06.01～2022.05.31
- 9358 高崎市浜川(競) 群馬県高崎市浜川町1486
第2種 400m 全天候 改造 継続2017.04.30～2022.04.29
- 9359 ヤンマーフィールド長居 大阪府大阪市東住吉区長居公園1の1
第1種 400m 全天候 継続 2017.05.20～2022.05.19
- 9360 指宿市営(陸) 鹿児島県指宿市東庁12000
第4種 400m 全天候 継続 2017.04.01～2022.03.31
- 9361 士別市(陸) 北海道士別市南士別町1612の3
第3種 400m 全天候 継続 2016.10.17～2021.10.16
- 9362 宮古(運) 岩手県宮古市赤前第8地割地内 コード番号 0332200
第3種 400m 全天候 新設 2017.07.12～2022.07.11
- 9363 六甲アイランド(10Km) 六甲アイランド高等学校南～
▽10km 自転車計測 循環 継続 2017.07.30～2022.07.29
- 9364 北上陸上補助(競) 岩手県北上市相去町高前壇地内
第3種 400m 全天候 継続 2017.03.01～2022.02.28
- 9365 一関市公認(ハ) 一関市総合体育館～
◆21km0975 10km 自転車計測 往復 継続
2017.05.31～2022.05.30
- 9366 新庄市(陸) 山形県新庄市金沢3070の4
第4種 400m 全天候 継続 改造2016.10.30～2021.10.29
- 9367 京都市西京極総合(運)補助 京都府京都市左京区西京極新明町32
第3種 400m 全天候 継続 2017.05.31～2022.05.30
- 9368 維新百年記念公園補助(陸) 山口県山口市維新公園4の1の1
第3種 400m 全天候 継続 2017.06.02～2022.06.01

- 9369 神奈川(ハ) 日清オイリオグループ(株)正面前～同構内
コード番号 147200
▽21km0975 10km 自転車計測 周回 新設
2017.07.01～2022.06.30
- 9370 城西大学総合(グ) 埼玉県坂戸市けやき台1の1
第4種 400m 全天候 継続 2017.06.01～2022.05.31
- 9371 東北・みやぎ復興(長) 岩沼海浜緑地公園
◆42km195 自転車計測 循環 一部往復 新設
2017.06.19～2022.06.18
- 9372 高田公園(陸) 新潟県上越市本城町46の1
第2種 400m 全天候 継続 2017.07.01～2022.06.30
- 9373 宇部市恩田(運) 山口県宇部市恩田町4の1の2
第4種 400m 土質 継続 2017.04.01～2022.03.31
- 9374 北上総合(運)(長) 北上総合(運)～
▽42km195 10km 自転車計測 循環 継続
2017.03.31～2022.03.30
- 9375 あいの土山(長) 甲賀市土山町北土山～土山町体育館前
42km195 21km0975 ワイヤ-計測 一部循環 往復
継続 一部変更 2017.08.01～2022.07.31
- 9376 能代市(陸) 秋田県能代市末広町66の1
第3種 400m 全天候 継続 2017.07.15～2022.07.14
- 9377 住友総合(グ) 兵庫県伊丹市瑞ヶ丘2の4
第4種 400m 全天候 継続 2017.08.01～2022.07.31
- 9378 高知龍馬(長) 県庁前交差点～高知県立春野総合(運)(陸)
◆42km195 自転車計測 片道 継続
2017.06.03～2022.06.02
- 9379 宮古市(ハ) 宮古地区合同庁舎～
▽21km0975 10km 自転車計測 往復 継続
2017.08.01～2022.07.31
- 9380 白鷹若鮎(ハ) 白鷹町立養蚕小学校～
▽21km0975 10km 自転車計測 往復 継続
2017.08.01～2022.07.31

◆検定延期が承認されている競技場及び長距離競走路

(2017.07.19現在)

- [栃木] 美原公演(陸) 第3種 400m 2017.10.17～2018.03.31
- [埼玉] 越谷市立しらこぼと(運) 第3種 400m
2017.10.20～2018.03.31
- [東京] 味の素ナショナルトレーニングセンター
陸上トレーニング場 第4種 400m

2017.08.01～2017.08.31

[東京] 中央大学多摩校地運動施設(陸) 第3種 400m
2017.09.01～2017.05.31

[石川] 小松(運)末広 第2種 400m 2017.08.01～2018.05.31

[京都] 京丹後市峰山途中ヶ丘公園 第4種 400m
2017.06.30～2018.06.29

[高知] 高知龍馬(長) 42.195km 2017.06.03～2017.08.31

[長崎] 峰総合(運) 第4種 300m 2017.03.10～2017.03.31

[長崎] 大村市(陸) 第4種 400m 2017.08.20～2018.08.19

◆公認が廃止となった競技場及び長距離競走路

(2017.04.06～2017.07.19)

[群馬] 伊勢崎市(陸)付帯(ハ) 21km0975 2017.06.30限り

[石川] スプリングラン犬丸 10km 2017.03.31限り

[石川] 志賀町(陸) 第3種 400m 2017.07.24限り

[福井] 若狭(ハ) 21km0975 2017.03.31限り

[愛知] 知多(運) 21km0975 2017.03.31限り

[愛知] 愛知県岡崎(総) 第4種 400m 2017.04.01限り

[京都] 京都市西京極総合(運)(陸)兼球技場付帯(長)
42km195 2017.06.18限り

[岡山] 蒜山高原ふれあい(ハ) 21km0975 2017.09.01限り

[高知] 阿南工業高等専門学校(陸)
第4種 400m 2017.06.30限り

◆種別変更のあった競技場

(2017.04.06～2017.07.19)

[大阪] 観音寺市総合(競) 第1種⇒第3種 (降格)

◆名称変更

(2017.04.06～2017.07.19)

[愛知] 名張市民(陸)⇒メイハンフィールド

大会観戦ガイド

第72回国民体育大会陸上競技会

秋のスポーツの祭典・国体を愛媛・愛媛県総合運動公園陸上競技場で開催します！ 各都道府県を代表する中学生から一般選手までの活躍を応援して下さい！

▼期日：10月6日（金）～10月10日（火）

▼会場：愛媛県総合運動公園陸上競技場
愛媛県松山市上野町乙46

▼アクセス：

- ・松山市駅よりバスで約30分（ニンジニアスタジアム（陸上競技場前）下車）
- ・松山ICより車で約10分

▼種目：

【成年男子】

100m、400m、800m、110mH、400mH、10000m競歩、走高跳、走幅跳、円盤投、やり投

【少年男子A】

100m、400m、5000m、400mH、棒高跳、走幅跳、ハンマー投、やり投

【少年男子B】

100m、3000m、走幅跳、砲丸投

【少年男子共通】

800m、110mH、5000m競歩、走高跳、三段跳、円盤投

【成年少年男子共通】

4×100mリレー

【成年女子】

100m、400m、800m、5000m、100mH、5000m競歩、走高跳、棒高跳、三段跳、ハンマー投、やり投

【少年女子A】

100m、400m、3000m、400mH、走幅跳

【少年女子B】

100m、800m、100mH、走幅跳、砲丸投

【少年女子共通】

1500m、棒高跳、三段跳、円盤投、やり投

【成年少年女子共通】

4×100mリレー

▼テレビ放映予定

NHK Eテレ

10月6日（金）

16：00～17：00

10月7日（土）



昨年度の大会より（少年女子B走幅跳で優勝した藤山有希）

16：00～17：00

▼問い合わせ先：

笑顔つなぐえひめ国体・えひめ大会実行委員会

TEL：089-947-5470

FAX：089-947-5721

大会公式サイト

<http://www.ehimekokutai2017.jp/kokutai//>

JOCジュニアオリンピックカップ 第33回U20日本陸上競技選手権大会 第11回U18日本陸上競技選手権大会

U20・U18日本陸上競技選手権を愛知・パロマ瑞穂スタジアムで開催します！若きアスリート達の熱戦を是非、会場で！

▼日時：10月20日（金）～22日（日）

▼場所：パロマ瑞穂スタジアム

愛知県名古屋市長瑞穂区山下通5-1

▼アクセス：地下鉄桜通線「瑞穂運動場西」駅下車徒歩10分
地下鉄名城線「瑞穂運動場東」駅下車徒歩5分

▼種目：

【U20の部】

〈男子14種目〉

100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

〈女子14種目〉

100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

【U18の部】

〈男子15種目〉

100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、4×100mリレー

〈女子15種目〉

100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、4×100mリレー



昨年度の大会より（ジュニア男子砲丸投、円盤投で優勝した幸長慎一）

▼テレビ放映予定

東海テレビ・BSフジ（放送予定）

▼問い合わせ先：

一般財団法人愛知陸上競技協会

TEL：052-249-4363 FAX：052-249-4366

日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1003/>

第48回ジュニアオリンピック 陸上競技大会

中学生アスリートの夢の舞台、ジュニアオリンピック！リレー日本一を決定する日本選手権リレーも同時開催！ぜひ日産スタジアムに足を運んで下さい！

▼日時：10月27日（金）～10月29日（日）

▼場所：日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス：JR新横浜駅から徒歩15分、
地下鉄新横浜駅から徒歩12分、
JR小机駅から徒歩7分

▼種目

〈男子〉

区分A：100m、200m、3000m、110mJH、走高跳、砲丸投

区分B：100m、1500m、110mH、走幅跳、砲丸投

区分C：100m、1500m、走幅跳

区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、4×100mリレー

〈女子〉

区分A：100m、200m、3000m、100mYH、走高跳、砲丸投

区分B：100m、1500m、100mH、走幅跳、砲丸投

区分C：100m、800m、走幅跳

区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、4×100mリレー

*年齢区分：2017年4月1日を基準として満年齢によって、
下記のとおり3区分する

A. 14歳以上～15歳未満（2002（平成14）年4月2日生～2003（平成15）年4月1日生）

B. 13歳以上～14歳未満（2003（平成15）年4月2日生～2004（平成16）年4月1日生）

C. 12歳以上～13歳未満（2004（平成16）年4月2日生～2005（平成17）年4月1



昨年度の大会より（B男子1500mで優勝した石田洸介）

日生）

▼入場料：

1,000円（1日）

※当日券のみ

▼問合せ先：

神奈川県陸上競技協会

TEL：045-210-9660

FAX：045-210-9667

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1007/>

第101回日本陸上競技選手権 リレー競技大会

リレー日本一を決定する日本選手権リレー！ジュニアオリンピックも同時開催！ぜひ日産スタジアムに足を運んで下さい！

▼日時：10月27日（金）～10月29日（日）

▼場所：日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス：JR新横浜駅から徒歩15分、
地下鉄新横浜駅から徒歩12分、
JR小机駅から徒歩7分

▼種目

【日本選手権リレー】

〈男子2種目〉

4×100mリレー、4×400mリレー

〈女子2種目〉

4×100mリレー、4×400mリレー

▼入場料：1,000円（1日）

※当日券のみ

▼問合せ先：神奈川県陸上競技協会

TEL：045-210-9660 / FAX：045-210-9667

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1006/>



昨年度の大会より（女子4×100mR決勝）

JAAF SHIGA 一般財団法人滋賀陸上競技協会

〒520-3251 湖南市朝国607 坂一郎方
TEL.0748-72-2056 FAX.077-527-3925
http://www.biwako.ne.jp/~srkshiga/

平成29・30年度新役員体制発足

6月の定例評議員会及び理事会において、平成29年度30年度の新役員が決定いたしました。6年後に開催が決定している滋賀県での国民体育大会に対応できる体制づくりを目指しています。新役員の紹介は、下記の通りです。

国体を6年後に迎える中、先日行われた第44回全日本中学選手権大会では、男子4×100m Rにおいて、双葉中学がみごと全日本中学新記録で優勝を果たしました。本県としましても喜ばしいかぎりでありました。

〈役員紹介〉

会 長	奥村 展三
副 会 長	野村 昌弘
	井上 彌彦
	辻 ひとみ
	磯田 英清
	宮本 孝
専務理事	坂 一郎
常務理事	馬場 豊

JAAF KYOTO 一般財団法人京都陸上競技協会

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番2
TEL.075-322-5500 FAX.075-322-5501
http://www.krk26.jp/

1917(大正6)年4月27日に京都三条大橋を出発して駅伝は始まりしました。駅伝発祥から100年を迎える今年、京都陸協はその記念事業に取り組みました。

4月29日午前三条大橋東詰にて石碑の除幕式を行いました。午後には小学生によるミニ駅伝を予定していましたが、スタート直前に天候が急変したため残念ながら中止となりました。夕刻には全国各地から多数の出席を仰ぎ、記念祝賀会を開催しました。

6月3日には好天のもと、西京極陸上競技場に建立する石碑の除幕式が行われました。競技場の北側、有森裕子さん、高橋尚子さん、野口みずきさんの功績をたたえる足形プレートの横に設置しました。石碑の中央から顔を出して記念撮影することもできます。西京極にお越しの折には、ぜひご覧ください。(文責:広報部長 相模浩史)



JAAF OSAKA 一般財団人大阪陸上競技協会

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1 大阪市長居陸上競技場内
TEL.06-6697-8899 FAX.06-6697-8766
http://www.oaaa.jp/

OSAKA夢プログラム(2017)

大阪陸協が取り組む2020東京オリンピック大会に向けた強化事業の続編です。今期は、当プログラム指定競技者の多田修平さん(関西学院大学)が追い風参考ながら9秒94を記録、世界陸上ロンドン大会100メートル競走の代表選手に選ばれ、準決勝に進出。400メートルリレーでは第1走者として銅メダル獲得に貢献しました。連日超満員のロンドンスタジアムの観衆は、選手を良く知っており日本チームにも大きな声援が送られました。最近、当プログラムは、多田さんの活躍もあり皆さんに知られるようになりました。今期の当プログラムでは、夏の北海道合宿をはじめ、オーストラリア(シドニー)、ドイツ(ベルリン)、アメリカ(テキサス)での海外合宿を計画しています。いずれも現地の専門指導者による指導とともに最寄りの競技会に参加するなどの遠征プログラムを設定しております。指定競技者の種目に対応したコーチと契約し、具体的な改善アドバイスを得ながら試行錯誤を繰り返して自分の成長に結び付けていく手法です。今冬のテキサス合宿では、幸いにアサファバウエルさんが一緒に練習していただいたこともあり、多田さんのスタートの改善のヒントが得られたようです。彼の海外に対する興味と海外遠征が苦にならない体質が好結果を生んだものでしょう。

(文責:常務理事 讃岐富男)

JAAF HYOGO 一般財団法人兵庫陸上競技協会

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号
神戸市生涯学習支援センター内
TEL.078-231-1771 FAX.078-231-1772
http://www.haaa.jp/index2.html

例年になく猛暑の日々が続きますが、皆さま方にはますますご清栄のことと存じます。

九州地方をはじめ全国各地で豪雨の被害にあわれた方々にはお見舞い申し上げます。

今年度は役員改選の年で、平成16年度より13年間にわたり会長として就任していただいた植月正章氏が退任後任として西川公明氏が就任いたしました。前任者同様ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

昨年度、春季記録会参加者が増加したため9時に競技開始終了が8時を過ぎてしまうような競技日程になるため、サブトラックで5000m、やり投げを実施しました。しかし、ウォーミングアップができなく危険な状態が見うけられたため、今年度、春季記録会を2会場(ユニバー記念競技場・加古川総合運動公園)で実施しました。兵庫県を東と西に分け郡市区ごとに、指定競技場で記録会を実施しました。メリット、デメリットについて今後検討してよりよい記録会にしていきたい。また、兵庫陸協の在り方等の諸問題について(審判員旅費、審判員働き方の改革、地域陸協の編成、登録方法、機関誌の発刊、協力団体との連携・協力体制、ウエルネス陸上)など検討している。

強化委員会は、10月に愛媛県松山市で開催される国民体育大会のための強化合宿を終えたところです。

また、第7回神戸マラソンが11月19日(日)に開催されます。約75000人の申込があり、抽選の結果フルマラソン20000人にさせていただきます。選手の皆様が快適に走れるように現在準備しておりますのでよろしくお願いいたします。(文責:総務委員長 宮永正俊)

事務局からのお知らせ

◆◆マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)の特設サイトがオープンいたしました。◆◆

8月23日よりマラソングランドチャンピオンシップ(MGC)の特設サイトがオープンいたしました。陸上ファンの皆様に喜んでいただける情報を積極的に掲載していきます。



マラソングランドチャンピオンシップ特設ホームページ <http://www.mgc42195.jp/>

◆◆MGC・MGCシリーズ・MGCファイナルチャレンジ ログマーク◆◆

* ログマークに込めた思い

ひとつひとつのドットは、ひとりひとりのランナーを表しています。すべてのランナーは、日本代表を目指す。その思いが集まって、日がまた昇るように、日本代表が世界の頂点を目指します。



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
友永 義治 (陸連副会長)
八木 雅夫 (陸連副会長)
尾縣 貢 (陸連専務理事)
伊東 浩司 (陸連強化委員長)
風間 明 (陸連事務局長)
早川 大介 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
青木 和浩
宮田 宏
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>